

水トラストニュース

2014.6 No.30



もくじ

木の楽器について	1
やってみよう！林業体験！子どもだってできちゃいます	3
春を食べる 2014	5
2014年度定期総会案内	7

木の楽器について

前田昌輝

こんにちは、前田です。

水トラストに参加するようになって1年が過ぎました。

無理せず行けるときだけ行くという気楽なスタンスで、気がつけば「食べる会」だけは皆勤賞な、なんともおいしい気分になっている今日この頃です。

さて今回レポートを頼まれまして、内容は何でも良いということだったのですこし「木の楽器」について書かせていただこうと思います。



Irishflute

私は趣味でアイルランドやブルターニュ、ガリシアといったケルト圏の伝統音楽を演奏しています。映画「タイタニック」の3等船室で主人公たちが楽しく踊っているシーンで演奏されている曲というイメージできる人も多いのではないのでしょうか。

私が主に使う楽器はアイリッシュフルートという70cmほどの木の横笛です。

フルートというとキラキラした銀色でボタン(ほんとはボタンとは言いませんが)がたくさんついたややこしそうなものを想像されると思いますが、アイリッシュフルートはそれが発明される以前の形で、黒壇や柘植などの木の筒の表側に指穴が6個空いているだけのとてもシンプルな構造です。この木の横笛からはとても温かみのあるやわらかい音で**伝統音楽特有の「土臭い音」**が響きます。シンプルな構造ゆえにさまざまな表情の音を出せるのも特徴で、「尺八の音に似てる」とよく言われます。**現代のキラキラした銀色でボタンがたくさんついたフルートではこの「土臭い音」というのはなかなか表現できません**(もちろんプロならできるとは思いますが)。素人が楽譜どおりいくら上手に吹いても



Inishmore, Ireland

この音は出ません。ケルト圏の伝統音楽は基本的に伝承・口承なのでそもそも楽譜がないのです。その土地の景色を思い描き、空気を思い出しながら吹く風の楽器、これがアイリッシュフルートなのです。

今年の「春を食べる会」に参加したときの自己アピールタイムで妻(アイリッシュボタンアコーディオン)と二人で数曲演奏させてもらいました。この手の音楽を生で聴くのは初めてという人がほとんどでしたが、手拍子あり踊る人ありでとても楽しいひと時でした。

水トラストに集う個性豊かな人たちが守ってきた森は大きな意味を持っています。そんな森の木でいつか、笛を作り、焚き火を囲んで演奏会ができればなぁ、なんてことを想いながら森仕事を楽しくしております。



なごや環境大学

やってみよう！林業体験！子どもだってできちゃいます

今年もなごや環境大学と連携し、森に関わる講座を行ってまいります。

その一つが5/10(土)の親子向けの林業体験！

普段街中で生活している子どもたち(大人も!)に、森はどんな風に映るのかな??



ちょっと季節がズレたかと思いきや
ありました～！でっかい椎茸！
原木の椎茸が出ているところは
子どもはもちろん、大人も初めてって人が
いましたよ。
ちょっと乾燥気味の椎茸はしっかりお土産に

そんなこんなで、5月の土曜日は平均年齢がグッと下がった、

賑やかで和やかな作業日となりました

森の中で感じるすがすがしい空気や匂い、そこで体験した森の仕事は、

子どもたちにとって忘れられないものになったことでしょう。

市村さん担当の植樹体験！

小さなヒノキの苗木を、均した地面に植えます。

どんな風に育つのかな??

10年後?20年後?

大きくなった木を見に来て欲しいですね～。

あ、毎月参加してもらうのが1番嬉しいや!



こちらは木亦親方が伐倒したヒノキ。
年輪を数えると、およそ 50 年。
木が倒れる瞬間はみんな息を呑んで見守って
いましたよ！
そして倒した所を子どもとお母さんと一緒に
ギーコギコギコ
この時の事が原体験となってくれたら嬉しい
ですね。



この時の事がきっかけで木こりに！...
なんて事にはならなくても、自然の中で遊ぶことが楽しいと思えてくれたら嬉しいですね。

それと、今回「親子で参加できる森仕事」に少なくない需要があることが分かりました。
「がっつり森仕事！」以外にも参加できる幅を持たせ、
今後の発展へ向けれたら楽しいだろうな～。

レポート：西川



こんな小さな子が薪割り！？
いやいや、とっても筋が良いんです。
差し出されるヒノキをリズム良く
パカパカ割ってましたよ～。
横で見守る木亦さんの目には、
20年後、木こりとなった彼の姿が
見えたに違いないでしょう！

春を食べる 2014

山下真紀

「春を食べようよ」で、たくさんの春を満喫してきました。2年ほど前にも「春を食べようよ」に参加し、春を食べつくしましたが、今年も訳あって参加させていただきました。

春と言えば暖かくて、たくさんの種類の花が咲くので大好きな季節です。私にとって春はお花見の春、お散歩の春、お昼寝の春だったのですが、「春を食べようよ」に参加してからは、もっぱら食欲の春になってしまいました。

今年は体力の無さから、まかない班で料理の補助をさせていただきました。と言っても、ほとんど見ていただけです。

材料である野草はほとんど用意されていたのですが、ヨモギとタンポポの葉は、食事する場所をお借りしたお宅で摘んできました。ヨモギはよく聞きますけど、タンポポも食べられるんですね。よく見ると、タンポポの葉っぱってベビーリーフに似ていて、サラダに入れても違和感なさそうと思ったら、小さい葉は生で食べられるそうです。大きい葉は天ぷらが無難みたいですね。



この日は八百津町に住んでいらっしゃる宮本家に泊めてもらいましたが、やはり春づくしのご飯ばかりで美味しかったです！タンポポの葉、つくし、タケノコ、全てが美味しかったです…。

翌日は野草から頂いたエネルギーで山仕事をしましたが、2年前に訪れた時と景色が少し変わっていました。以前に来た時には、コバノミツバツツジは咲いていなかった気がします。これも、みなさんが山の手入れをした成果なんですね。光も以前より入っている気がしましたし、とても幻想的な景色でした。

今回参加させて頂いて勉強になったことは、「春はスズラン系以外の野草は食べられる」こと、「木を間引くことによって新しい植物が生える」ことです。

春はたくさんの花は咲くし、虫も活動が盛んになるし、田植えにも良い季節ですし、まさに一年の始まりという感じですね。どうせなら今度は、虫も食べてみたいかなと思っています。

子供の頃は怪我をしたらヨモギをすり潰して塗ったり、草花を食べたり、花の蜜を吸ったりしていましたが(決して飢えていた訳ではありませんよ)、その頃を思い出して、ノスタルジックな気持ちにもなりました。



(「春を食べる」は4月12日に開催されました。

来年は、虫メニューも登場するか?)

男は森で迷っていた。そこは何の変哲もない雑木林だった。人里から遠くはなく、里山とよんでもいいような場所だった。しかし男は、もう何日も、そこから出ることができなかった。自分は神隠しにあって消えてしまったのだ、と男は思った。もちろん男自身にとって、自分は消えてはいない。しかし、自分が昨日まで暮らしてきた世界では、あの人は神隠しにあったと言っているに違いなかった。

男はふと甘いにおいを感じた。立ち止まっていくどか呼吸すると、甘いにおいと感じられたものは、実は何かが燃えているにおいだった。そのまま歩き続けると、においは少しずつ強くなり、やがて木立の間から煙が見えた。それは細い煙で、そのもとは小さなたき火のようだった。実際、近づいてみると、地面にドラム缶を横にした程度の大きさのくぼみがあり、その中で木が燃えていた。指の太さほどの木が、くぼみに入る長さに折られ、何本も乱雑に重ねられていた。木は不思議なことに炎は立てておらず、ちょうど炭が燃えるように赤い光を出し、その光から少し離れたところで白い煙が生まれていた。

これは誰かが燃やしているに違いない、と男は考えた。きっと近くの人里に住む、この森をよく知っている人だろう。ここで待っていればその人が現れ、自分を人里まで導いてくれるに違いないと思い、男は安堵した。

しかし、いくら待っても誰も現れなかった。日が落ち、夜が更け、やがて夜が明けた。その間、木は驚くほど長い時間、同じ赤い光を発し続けていたが、何本かの木は光を失い、黒くなっていた。男は黒くなった木を取り出し、近くの木の枝を折ってくぼみの中に入れた。やがてその枝は、もともとあった木と同じように、赤く光り始めた。

このようにして、またいく日かが過ぎた。男は毎朝くぼみから黒くなった木を取り出し、おおよそ取り出した分の新しい木を入れた。そして、木が赤い光を発し、やがてしだいに黒ずんでいく様子を一日中見続けた。自分はここで誰かが来るのを待っているのだと男は時々思い出し、周りに注意はらったが、ほどなく再び赤い光を見つめ始め、気がつくと日が暮れていた。

ある朝、男は取り出したばかりの黒くなった小さな木を手に取り、握りしめた。熱は残っていたが、さわっていられないほどではなかった。それから男は、その木を口の中に入れた。すると、前歯は無意識のうちに動き、軽い音を立てて黒い木は折れ、小さな切れ端が口の中に残った。その瞬間、男は自分のやろうとしていることに驚き、うろたえた。この黒い木を自分の体は受けつけないはずだ、と思ったのではない。その逆に、自分の体はこれを受け入れてしまおうと感ずき、そのことの意味をさとしてあわてたのだ。男は地面にひざまずき、手を口にあて、口の中のものを吐き出した。吐き出そうとした。しかし、体の動作を裏切って、男の奥歯は口の中のものをかみ砕き、砕くときの軽快な音が頭全体に伝わった。ああ、と男は声を出そうとしたが、声は出なかった。ひざまずいたまま、頭を垂れ、男は涙を流した。しかし、涙は一滴も地面に落ちてはこなかった。やがて、口から喉の奥へ、噛み砕かれた黒いかけらが落ちていった。

2014 年度定期総会のご案内

時：6月22日(日)14:00~

場所：名古屋働く人の家 (地下鉄・伝馬町下車、徒歩6~7分)

議題：2013年度事業報告および決算報告

2014年度事業計画および予算

その他の報告



5月10日の炭焼き

気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき：毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所：御嵩町・中公民館(名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ)

集合時間：午前10時(日曜日に日帰りの方も同じ時間に中公民館にお越し下さい)

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

申し込み・お問い合わせ先：TEL & FAX 052-735-5453 (市村)

Email : mitake500npo@yahoo.co.jp

参加者の服装・持ち物：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物、弁当、水筒

(宿泊出来る方は：寝袋、洗面セット、食器、ハシ)

宿泊先：ふれあいセンター(御嵩町上之郷字綱木)、日帰り参加も歓迎です

表紙の絵は早川しょう子さん作

発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL & FAX 052-682-4737

郵便振替00800-9-64810

URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>

e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp